

自己の生き方をみつめる教科横断型カリキュラムの実践

橋村 由希子

金沢大学大学院教職実践研究科 学習デザインコース

【概要】生きていく中で、日常の些細な決断から人生の岐路に立つような決断まで、様々な自己決定に迫られる。つまり、自己の生き方について、自分で考え自己決定していく力が求められる。予測不可能で価値観も多様化する現代においては、なおさら必要となる力である。そこで、自己の生き方を考えることができるような教科横断型カリキュラム「自分の生き方について考えよう」を構想した。第6学年において、総合的な学習の時間を中軸に、国語科など教科を横断して、自己の生き方について考えさせることで、考えの深まりが見られたかを考察・検証した。その結果、様々な教科・単元で、実在する人物の生き方や物語の登場人物の生き方、クラスの仲間の生き方と、自己の生き方を比べ、自己の生き方について思考を深めていた。したがって、自己の生き方を考える教科横断型カリキュラム「自分の生き方について考えよう」は有用であると考えた。

I. はじめに

1. 「自己の生き方を考える」

私たちは生きていく中で、日常の些細な決断から、人生の岐路に立つような決断まで、実に様々な自己決定に迫られる。その結果が思い描いていたものであれば、自己肯定感が高まり、前向きに生きていこうとする意欲につながる。それとは反対に、自身が下した決断が後悔を伴うこともある。だからといって、誰かから与えられた決断で成功を得たとしても意味がないし、期待通りの結果が得られなかった場合は、人のせいにしてしまい、納得がいかないものである。

このことから、私は、常日頃、自分で考え、自分で決断し、自分自身で人生を創っていくことが大切だと考えている。また、そのような人生の方がはるかに楽しいとも考える。

一方、小学生にとって、生き方を考えることは早急でないかという考えもある。

しかし、現代は予測困難な時代であり、価値観も多様化している。人工知能が生活の中に入り込み、情報化・グローバル化もますます加速していく。私たちの予想をはるかに超えるスピードで時代は変化し、答えのない時

代を生きていかねばならない。その中で、自分の生き方に悩むことは決して少なくないだろう。このような時代を生きていくには、自分がどのような人間で、どのように生きていきたいのか、自己の生き方について考え続けていくしかない。小学生だから生き方を考えることが、早すぎるということはないだろう。

また、小学校高学年は思春期に差し掛かる。多くの悩みにぶつかりながらも、自分で判断して乗り越えていかねばならない。それに、自分の仕事や進路について考えていかねばならない時期でもある。このような時期に、自己の生き方について深く考える経験は、今後の糧となると考える。

2017年の学習指導要領の改訂においても、一貫して「自己の生き方を考える」ことを目標に挙げている。総合的な学習の時間（以下「総合」とする）（文科省 2017⁽¹⁾）だけでなく、道徳（文科省 2017⁽²⁾）や特別活動（文科省 2017⁽³⁾）にも明記されている。また、国語科（文部科学省 2017⁽⁴⁾）では「読むこと」(2)イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする」等の言語活動

を通して指導事項を指導するとされている。

以上のことより、小学校高学年で「自己の生き方を考える」ことは意味があると考えた。

2. 教科横断型カリキュラム

私は、過去第6学年を担当した際、国語科の「海の命」(物語)「生きる」(詩)において、「読むこと」(2)イ「自己の生き方について考えたことを伝え合う」言語活動を設定してきた。叙述をもとに登場人物の生き方について考え、自分の生き方と比べたり、自分にとって「生きる」とはどういうことかを考えたりした。

しかし、児童は、この学習以前に「自己の生き方」について考える経験はほとんどなく、登場人物の生き方と比べて自己の生き方について考えたことを文章にまとめても、表面上の言葉になったり、『自然との共存』という物語のテーマに関わる登場人物の生き方としか比べることができなかつたりという課題を感じていた。

「自己の生き方を考える」というのは、児童にとって、大変深く難しいテーマであるの

で、長いスパンで常に考え続けていかなければならない。また、児童の生育環境や興味に差があるため、どのような人物との出会いによって、もしくは、どのような経験との出会いによって、自己の生き方を深く考え始めるか分からない。人それぞれである。そこで、第6学年の一年間にわたり、教科を横断して、自己の生き方について考え続けていくことで、考えをより深めることができるのではないかと考えた。

Ⅱ. 研究の目的

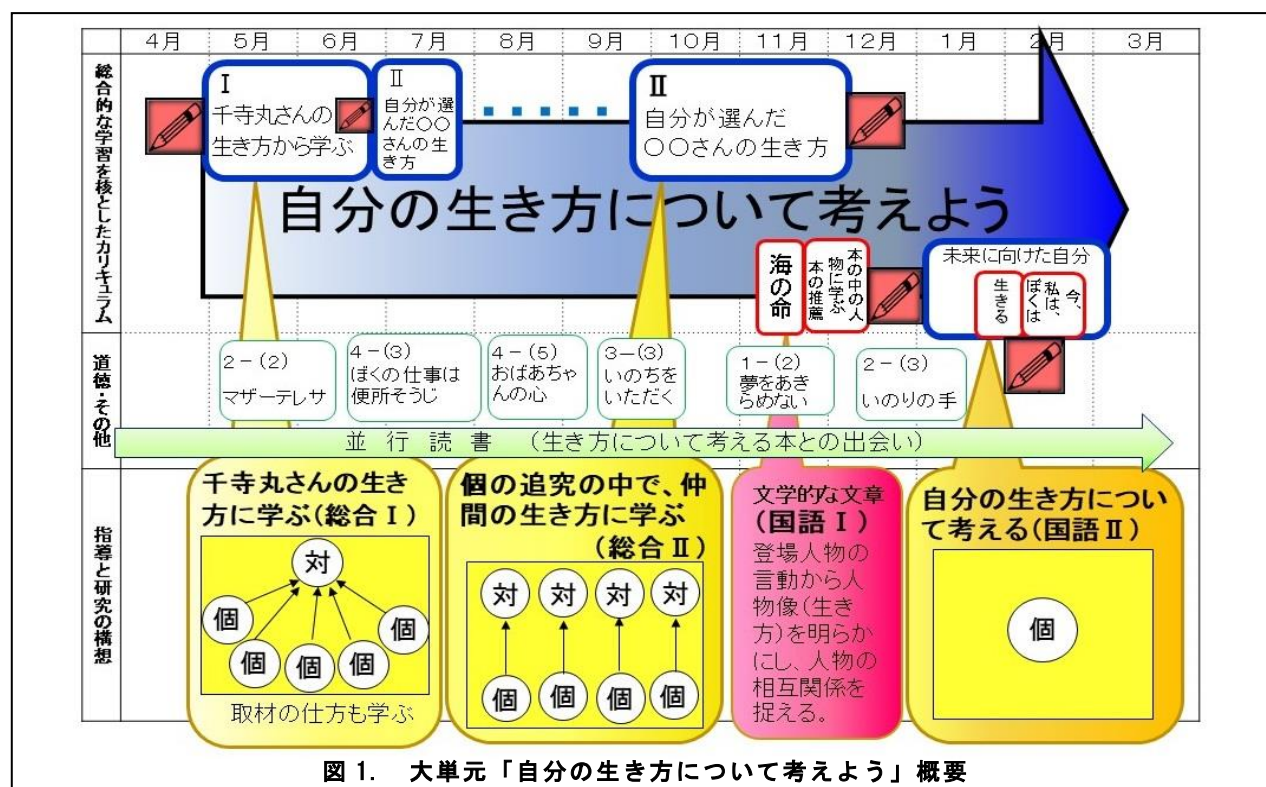
年間を通じて教科を横断して「自己の生き方」を考えることができるようなカリキュラムを提案し、授業実践を通して、そのカリキュラムの妥当性と問題点を明らかにする。

Ⅲ. 研究方法

「自己の生き方」についての児童の学びを、抽出児童の学びを中心にしながら検証する。

【対象】加賀市立橋立小学校6年生(25名)

【期間】平成29年5月～平成30年2月(全45時間)



Ⅳ. 大単元の概要

図 1 に示したように、総合を中核として、国語科等も関連させた大単元「自分の生き方について考えよう」を構想した。

1. 総合Ⅰ「千寺丸さんの生き方から学ぶ」

総合Ⅰでは、地域の人物「千寺丸義一さん」の生き方について、クラス全員で学んでいく。

生き方について考える初めての単元である。誰かの生き方に着目し、取材したり考えたりするのは面白い、また、誰かの生き方から学ぶことは自分が生きていく上で役に立つと思える単元の始まりにしたい。

(1) 共通の学習材から学ぶ意図

本来は、自分が調べたい人物を選び、追究することが、より目的意識のある主体的な学びになるであろう。しかし、人物の生き方から学ぶといっても、児童は、生き方を考えることはどういうことか、何に着目して取材したらよいのか、内容についても取材の仕方についても分からないと思われる。

そこで総合Ⅰは、共通の人物を教師が取り上げ、クラス全員で共通の人物の生き方から学ぶ。一人ひとりで追究する総合Ⅱの学習を見据え、総合Ⅰでは、学習の進め方についても学ばせていく。

(2) 千寺丸さんを学習材に取り上げる意図

ここでは、地域の人物を取り上げる。地域に生きる身近な人物は、伝記で語られるような偉人ではないが、喜びあり苦労あり紆余曲折を経て現在に至っている。偉人やテレビの中の憧れの人物の生き方から学ぶこともあるが、日々出会う様々な人の生き方・考え方から学んでいくことも多い。身近な人物であってもその方なりの生き方があり、学ぶことが多いと考えた。

橋立町は、北前船で栄えた町であり、現在も漁村として続いている。児童の生活は海と密接につながっている。そのため、漁業に携わる人を学習材とすることとした。

そこで、橋立地区在住の元漁師（千寺丸義

一さん）を共通の学習材として取り上げた。千寺丸さんは地元で生きる漁師であり、底引き船の船頭を長く務められた方でもあるが、若い頃から捕鯨船に乗ったり、イタヤ貝の漁をしたりと児童にとって聞いたことのない話ばかりで興味深く聞くことができるだろう。また、千寺丸さんはクラスの児童の祖父であり、親しみがあがり興味をもって話を聞くことができる考えた。

2. 総合Ⅱ「自分が選んだ〇〇さんの生き方」

総合Ⅱでは、総合Ⅰでの学びを生かし、追究したい人物を自分で選び、自分で追究していく。総合Ⅰは、教師が追究する人物を決めるが、総合Ⅱは児童自ら選択することで、より主体的に生き方を追究できようにしたい。

(1) 自分が選んだ人物の生き方から学ぶ

1 学期の終わりに、総合Ⅱの学習の導入を行う。夏季休業を利用することで、普段会えない遠方の方や、取材できる時間が限られている方に対しても取材できるようにする。自分一人で追究することに不安を抱いたり、追究する人物を決められなかったりする児童に対しては、夏季休業中に担任と児童が顔を合わせる機会を利用して相談し、自分で追究を進めていけるようにした。

(2) 仲間の追究から学ぶ

総合Ⅱでは、それぞれ違う人物の生き方から学ぶが、追究している仲間の姿や仲間が追究から考えたことから学ぶことができると考えた。授業では、1 時間に一人の児童の追究を取り上げ、追究して考えたことについて話をさせる。その話を聞き、その他の児童が自分と重ね合わせて考えることで、一人の追究から皆が学ぶことができるようにした。

3. 国語Ⅰ「海の命」

国語Ⅰ「海の命」では、平成 24 年度の実践で明らかになった、一つの単元でのみ生き方を考えるのは難しいという課題を踏まえ、総

合での学びを生かし、生き方について深く考えられるようにしたい。平成 24 年度の単元構想をそのまま実践し、本実践と比較する。

(1)教材「海の命」について

「海の命」は、海や主人公をとりまく人物との関わりの中で、主人公の成長が描かれ、生きることや自然との関わりを考えさせられる物語である。主人公・太一の少年期から始まり、青年、壮年になるまでの生涯が、6つの場面構成で描かれている。場面展開は時間の流れに沿っており、山場も捉えやすい。

また、主人公の生き方に影響を与える人物の言葉や行動などから心情を想像するとともに、生き方・考え方について考え、自分自身の生き方を考えることができる教材であると考ええる。その考えをもとに、友達と交流することを通して、自分の生き方についての考えをさらに深められると考える。

(2)言語活動とその特徴

本単元には、平成 24 年度同様、「人物どうしの関係をとらえ、人物の生き方について自分の考えをまとめよう」という言語活動を位置付けた。人物像や人物相互の関係を人物関係図にまとめ「登場人物の生き方」と「自分の生き方」を比べ、考えたことをまとめ、交流する。したがって、本単元でねらう「登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめること」(C 読むことエ)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」(C 読むことオ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

(3)生き方を考えてきたことが国語科に与える影響

「海の命」の学習以前に、生き方を考える経験があれば、登場人物の生き方を考えることへの抵抗は小さくなるだろう。国語科では、総合との違いである叙述に着目して読むことを重点とし、人物の生き方や相互関係を学んでいけばよい。したがって、国語科のねらい

に一層迫ることができると考えた。

(4)国語科で学習したことが生き方を考えることに与える影響

児童は、「海の命」の父と師匠の二人の生き方の狭間で葛藤して悩んだ登場人物と、葛藤する自分とを重ね合わせ、自分の生き方について考えるだろう。また、実在する人物の生き方からだけでなく、物語の登場人物の生き方からも学んだこの経験が、今後児童が生き方に悩んだ時の助けになると考えた。

4. 国語Ⅱ「未来に向けた自分」(継続中)

3 学期に行う国語Ⅱは、誰かの生き方から学ぶ学習とは違い、自分の生き方について考える自己との対話である。自分はどう生きていきたいかを再度自分の心に問い直させ、自分の言葉で表現させたい。

表現の方法としては、谷川俊太郎の詩「生きる」を学習後、オリジナル「生きる」の詩を作る。「今、わたしは、ぼくは」では、自分がどのように生きていきたいかをひとつづきの文章に表し、クラスの仲間に発表する。

(1)オリジナル「生きる」の詩で表現する効果

詩の言葉は短い。その言葉は、自分がどう生きていきたいかをまとめた言葉となっているはずである。よって、考えを大まかに整理することにつながると考える。また、文章構成を考えながら文章を書くことに抵抗のある児童にとっては、心に浮かんだ短い言葉で表現できる詩は、自由な表現の場になると考える。

(2)「今、わたしは、ぼくは」でひとつづきの文章で表現する効果

ひとつづきの文章は、気持ちの細かな部分まで表現することが可能である。自分の考えを明確に伝えようとすることで、生き方についての考えを深めたり整理したりすることになると考える。

一年間の学びの総まとめである。発表を聞く側は、仲間の考えを興味深く聞くだろう。発表する側は、仲間に向かって、自分の考え

Y児の授業後のふりかえりを次に示す（資料3）。



資料 3 総合 I の導入後 Y 児のふりかえり

「ぼくは、自分のことしか考えていないけれど、自分の人生の自分の時間を使ってでも、何かのために生きることは、ぼくにとってはすごいこと。」と書き、驚きを素直に表現している。自分のためには努力を厭わないが、他の誰かのために自分を犠牲にして何かをするという考えは、Y 児にはないようである。この時期の発達段階では、一般的な考えだと思われる。

③千寺丸さん取材一回目（総合 I 3・4/12 時）

千寺丸さんの一回目の取材では、中学校で勉強しないと学習についていけないという話、父と共に底引き船に乗った話、父を亡くし一家の稼ぎ頭として捕鯨船に乗り南氷洋に出た話、捕鯨が厳しくなり、捕鯨船を降りて友達とイタヤ貝をとった話、再び底引き船に乗り、船頭を 30 年以上務められた話、その時の喜びや苦勞された話など、生の声を聞かせていただいた。



千寺丸さんに取材した授業の様子

その話を聞いて、Y 児は「予習復習をしっかりとしたい。」とふりかえり（資料 4）に書く。

他の児童のほとんどが、千寺丸さんが自分のことより家族や若い衆など人の事を考えてきたこと、責任感をもって船頭を務め上げたこと、その時その時で決断をしてきたこと等を、驚きと共に尊敬の言葉で記載



資料 4 千寺丸さん取材一回目後 Y 児のふりかえり

しているのに対し、「予習復習をしっかりとしよう。」とか「自分のことより若い衆のことを考えることは大変。」と、辛さで捉えているのは Y 児一人であった。

価値観は簡単には変わるものではないと感じた。

④「千寺丸さんは何を大事にされているか」の話し合い（総合 I 8/12 時）

取材後の感想では、児童の大部分が千寺丸さんを「すごい」という言葉で表現する。しかし、何を「すごい」と捉えているのかは、様々である。互いに「すごいな・素敵だな」ということを交流することで、千寺丸さんの生き方について考えを広げたり深めたりすることができる考えた。

そこで、授業では「千寺丸さんのことをみんなはすごいすごいと言ったけれど、千寺丸さんは何を大事にして生きてこられたのかな。」と課題を共有し、全体で話し合った。その時の授業記録が資料 6 である。

T:(捕鯨船に乗ったことを指して)ここ、お金のため。イコール家族のため(だと思ったの)?
C:うん。(うなずく)

T:お金がないと？
 C:食べさせてやれん。
 C:生きていけん。
 T:そうだよね。家族生きていけんもんね。死んでしまうもんね（捕鯨船に乗ったところに、金と板書）。（友達とイタヤ貝をとったことを指して）ここも？
 C:お金のため。
 T:（イタヤ貝をとったところに、金と板書）
 Y1:ここ（底引き船の船頭をしていたこと）もお金のためだと思います。
 C:えっ！？
 C:えっ！？若い衆（のためじゃないの）？
 T:（船頭をしたところ、金と板書）
 Yはここもお金のためと言いました。
 C2:（挙手し）違う。
 ・・・・（中略）・・・
 C3:最終的にお金。
 C4:信用されんと若い衆ついてこんし、若い衆ついてこんとお金も儲からんから、信用が大事だと思います。
 C5:若い衆がついてくるのも信用があるからで、船主が船をどんどん大きくしてくれたのも船頭を信用しとって大きくしてくれて、輪になって食べるのも若い衆との仲を深めるためだから信用だと思います。
 C3:さっきから、信用信用って言ってるけど、信用だけでお金が稼げたわけじゃない。他にもいろいろあるから、信用だけじゃない。最終的にお金。
 C2:どういうこと？
 T:どういうことって言ってるけど意味わかる？
 C2:お金で何になるん？
 Y2:生活が楽になります。
 T:たしかにねえ。
 C6:でも、お金だけで生活が楽になっても若い衆と一緒に同じ船に乗りながら、お金だけじゃなくて信用もいると思います。
 C7:お金と信用、両方だと思います。
 C8:信用も大事やし、お金も大事やから、どっちも入れた方がいい。
 T:こっち（お金）も大事、こっち（信用）も大事。でも、こっち（お金）だけでは絶対ないっていう意見もあったよね。
 C2:うん。絶対ない。

資料 6 「千寺丸さんは何を大事に生きてこられているか」を話し合った授業記録

Y児は「（底引き船の船頭をしていたことも）

お金のためだと思います。」と言い切った（Y1）。それに対して「違う。」と言う他の児童。結論が出ず、再度取材を行うことにした。

その日のふりかえり（資料 7）で、Y児は「やっぱりお金のため」と書いている。若い衆を束ねる船頭として、様々な苦労をされてきたことをふりかえったり、クラスの仲間の話を聞いたりしても「お金が大事」という考えは変わらなかった。

Y児の「自分のしたいことや生活のためには、お金が大事。」という価値観は、現実的な思考であり生きていくためには必要不可欠なことである。一方、「生活していくために、お金さえあれば。」と

た	時	だ	し	大	
こ	に	と	れ	事	ほ
と	あ	思	な	に	く
が	父	い	い	千	は
あ	せ	ま	け	寺	、
っ	ん	し	ど	丸	今
た	を	た	い	せ	月
か	せ	そ	ん	の	
ら	く	理	れ	は	殺
ど	し	田	は	生	業
す	て	は	、	ざ	を
。収	、	や	て	ふ	
	入	千	つ	き	り
	が	寺	ば	た	返
	入	丸	り	の	ッ
	ら	と	お	は	て
		なん	金	本	、
		く	は	の	信
		な	若	た	か
		っ	い	め	も
					を

「自分の生き方について考えよう」
 ふりかえり

資料 7 「何を大事に生きてきたか」の話し合いの後のY児のふりかえり

も受け取れる発言に、私は、人からの信用や人との関わりも大事にしてほしいと願った。

⑤千寺丸さん取材二回目（総合 I 9・10/12 時）

千寺丸さんをお呼びし、「私は、千寺丸さんは〇〇を大事に生きてこられたと思いました。その理由は・・・。」と、自分たちの様々な考えを伝えた。もちろんY児も伝えた。その上で「でも、自分たちは話し合っても、千寺丸さんが何を大事にされてきたか、どうしても分からなかった。だから、何を大事にされてきたのか教えてください。」と質問した。

千寺丸さんは児童の話を聞かれ、「どれも大事。」とされた上で、「でも、お金が先じゃない。信用があって、若い衆がついてくる。そして、この船頭についてやればお金が儲かることが分かって、お金が信用を強くするということはあるが、お金があるから、信用したり、人がついてきたりするのではない。」と言われた。

「千寺丸さんの生き方から学んだことは、お金だけが全てじゃないということです。お金目的で信用を大事にしているだけじゃだめだと言っていたのを聞いて、信用は必ず大事にしないとだめなんだと思った。」と書き、

学習は楽しかったか。

大変楽しかった 4名/25名(16%)
楽しかった 12名/25名(48%)
どちらともいえない 4名/25名(16%)
あまり楽しくなかった 4名/25名(16%)
全く楽しくなかった 1名/25名(4%)

設問3. 自分が選んだ人物の生き方を追究する 学習は難しかったか。

全く難しくない 2名/25名(8%)
あまり難しくない 4名/25名(16%)
どちらともいえない 4名/25名(16%)
少し難しかった 8名/25名(32%)
大変難しかった 7名/25名(28%)

設問1の肯定的な意見の理由としては、

- ・今まで人とか自分の生き方とかを考えたことがなかったけど、この学習で考えられたから。
- ・私が追究した人は、この時はああったこうだったと教えてくれて視野が広がったから。
- ・自分が取材したじいちゃんは、辛くてもがんばっていて、ぼくもそういう辛いことがあってもがんばろうという気持ちになりました。
- ・自分の夢に向かって、たくさん勉強するということがわかったから。

等があった。多くの児童が、まず親族の生き方について知ることができたことを大変満足していた。そして、その生き方を今後の自分の生き方につなげて考えようとしていた。

逆にあまり役に立たなかったとした理由は

- ・聞くことは聞いたけど、あまり興味をもてなかったから。(C1)
- ・ひいばあちゃんの生き方を知れたけど、そのことを自分もしてみようとは思わなかったから。(C2)
- ・先生を取材して、先生の生き方はわかったけど、自分の生き方は見つけられなかったから。

であった。C1、C2は自分一人での追究がうまく進まなかった児童である。

設問2の肯定的な意見の理由としては、

- ・こういうことがなければ聞かなかっただろうし、いろいろ知れたから。
- ・自分の選んだ人の生き方が知れたから。
- ・その人に起こった出来事や、今までの考えと自分の違いなど、自分の体験していないことから学ぶので、自分の分からないと思うことができて、それを一つひとつ解決していったから。
- ・私は「楽しい」というより「おもしろかった」です。理由はばあちゃんはこんな生き方だったけど、私はこんな生き方で、というふうに違ったからです。

等があげられた。逆に否定的な理由としては

- ・追究が難しかった。(C1)
- ・人の話を聞いているだけ。(C2)
- ・昔のことを聞いても、今とちょっと違うだけだった。
- ・お母さんは普通の生き方をしていた。
- ・「そんなこと聞いてどうする？」と聞かれた。

やはり取材に苦労したC1、C2は否定的であった。追究の途中で行ったふりかえりから、C1、C2が追究に困難を抱えていることは捉えていたが、私は十分な支援を行えなかった。C1、C2ともに、相手の話からその時の気持ちを聞き、さらに深く聞くことができなかった。他には、自分の親族の生き方に対して期待が大きかったものの、期待とは違い、やや落胆している児童も見られた。

設問3では、追究は難しかったという意見が多数(60%)を占めた。その理由としては、

- ・いつ、何をしたかを質問するのは簡単だったけど、その時の気持ちを質問するのは難しかったから。
- ・1回目の取材と2回目の取材で、もっと深くなっていかなかったからです。どんな質問をすればよいのかわからなかった。
- ・こんな取材をするのは初めてだったから。

等である。

このように、個々に進める追究は、初めての経験であり、相手は学習の意図を理解していないため、取材が思うように進まないことが多々あったようだ。しかし、60%の児童が難しいと感じながらも、84%もの児童が、総合Ⅱの学習は生き方を考える上で役に立たと答えている。一人で追究を進め、互いの追究を聞き合い考えた総合Ⅱは、生き方を考える上で意味があったと言える。

(3)総合Ⅱ「自分が選んだ〇〇さんの生き方」 の事例2

—深い追究に向かったH児—

前述のアンケートで、全ての設問に対し肯定的な回答をしている児童Hがいる。しかしH児は最初からこの「自分の生き方を考える」学習に対して、肯定的だった訳ではない。そんなH児が、この単元でどのように追究し、どのように生き方について考えていったのか検証・考察する。

①大單元導入前（総合Ⅰ 1/12時）

大単元導入前のH児の作文を、以下に示す。

しで	主	か	に	を	い	自	自	自	自	自	私
で	女	れ	一	こ	る	分	分	分	分	分	は
中	の	の	学	に	に	の	の	の	の	の	今
変	生	生	期	に	に	生	生	生	生	生	日
有	の	の	の	に	に	の	の	の	の	の	の
る	生	生	学	に	に	の	の	の	の	の	の
か	方	方	習	に	に	の	の	の	の	の	の
も	を	を	に	に	に	の	の	の	の	の	の
し	知	知	に	に	に	の	の	の	の	の	の
か	て	て	に	に	に	の	の	の	の	の	の
な	な	な	に	に	に	の	の	の	の	の	の
い	と	と	に	に	に	の	の	の	の	の	の
と	期	期	に	に	に	の	の	の	の	の	の
特	待	待	に	に	に	の	の	の	の	の	の
し	て	て	に	に	に	の	の	の	の	の	の
こ	を	を	に	に	に	の	の	の	の	の	の
い	ま	ま	に	に	に	の	の	の	の	の	の
ま	す	す	に	に	に	の	の	の	の	の	の
す	。	。	に	に	に	の	の	の	の	の	の

資料 11 大単元導入前 H児の作文

「生き方を考えることについて私は何も思いません。」 「今も生き方を考えている。」

「一歩先を見ていけば、自分らしく望むように生きていける。」と書いている。自分なりに生き方をしっかり考えているので、考える必要がないという考えが見て取れる。本児は、普段から考えをしっかりと持っている。それは、良い面でもあり、他の意見をなかなか受け入れることができないという一面でもある。

②千寺丸さん取材二回目（総合Ⅰ 9・10／12時）

取材後のH児のふりかえりを以下に示す。

「自分の生き方について考えよう」

ふりかえり

た	か	と	そ	き	よ	え	え	か	こ	寺	事
て	が	ち	さ	な	お	ら	え	わ	そ	ね	に
受	う	見	さ	な	私	れ	考	か	れ	さ	生
け	ち	ち	た	に	は	る	え	かり	そ	さん	きて
い	を	こ	こと	の	信	な	と	まし	き	お	て
え	る	千	か	の	用	と	た	り	い	金	き
こ	る	寺	さん	の	大	思	か	え	て	が	た
こ	も	太	さん	り	事	ま	し	そ	の	く	と
も	ち	さん	の	ま	堂	し	に	後	は	の	と
大	が	が	と	金	だ	に	で	もう	信	わ	が
事	う	人	こ	と	け	そ	う	一	用	え	かり
な	見	言	に	信	と	い	う	度	が	まし	ん
ん	ち	た	私	用	物	ふ	う	見	強	は	は
だ	を	の	が	ど	の	う	も	方	く	ど	も
と	り	い	っ	ち	さ	こ	信	な	、	千	大
思	か	で	も	大	事	事	用	も	寺	太	
い	い	い	こ	に	が	考	も	が	さん	は	
まし	し	ち	に	に	物	う	も	信	ん	信	
た	れ	と	に	に	の	こ	事	用	は	用	

資料 12 千寺丸さん取材二回目終了後H児のふりかえり

「信用」の大切さについて記載している児童が多い中で、H児は「信用の大切さも学んだが、物の見方によって身の回り、世界が変わるということが何より心に残りました。」と「物の見方」のことを書いている。H児は千寺丸さんとの学習の中で、「信用を大事に」という生き方よりむしろ、「物の見方」や「それを受け入れることの大切さ」といった学び方・考え方を学んでいると言える。

③一人で進めたH児の追究

以下に、H児の総合Ⅱの導入時のふりかえりを示す（資料13）。

作文の書き出しには「これから私は私のおばあちゃんについて学習したい。」と記す。初めは生き方について考えていくことを何とも思っていなかったH児が、「したい」という

す、	ま	る		す。	た	ら	ら	い	ほ	し	
う	人	知		か	か	し	海	か	女	た	こ
パ	が	り		か	た	い	を	ら	手	い	れ
ニ	い	合		け	の	お	お	で	一	と	か
や	ま	い		ど	で	よ	す	で	つ	思	ら
さ	す	に		あ	本	い		お	で	て	は
さん	。	ハ		ち	当	で		母	い	私	の
だ	。	お		な	は	も		さん	ま	の	お
か	時	さん		ん	ひ	ど		ち	す	ば	あ
ら	間	と		に	い	て		ん	。	あ	ち
で	ぐ	言		し	じ	き		の	お	ば	ん
す	う	い		ま	ち	た		お	あ	あ	に
	い	う		よう	へ	父		育	て	つ	い
	ん	そ		た	ん	に		ま	人	は	学
代	け	ん		の	の	け		さん	は	た	習
に	い	け		で	学	て		は	ら	し	
い	さ	い		残	習	き		戦			
る	れ	し		念	を	た		争			
人	て	で		た	し			か			
で	し	い									

資料 13 H児が当初取材しようとした人

意欲的な表現で総合Ⅱへの思いを書いた。これは、総合Ⅰで、生き方を学ぶ価値を見出しているからだ考える。

取材する人物の候補に「祖母」と「やぎさん」を挙げた。「おばあちゃんはほぼ女手一つでお母さんたちを育てていたらしいから。」と述べ、母とどこか境遇が似ている祖母の生き方に興味を抱いている。一方「やぎさん」については、「知り合いにやぎさんという尊敬している人がいます。3時間ぐらいで売り切れてしまうパン屋さんだからです。」と述べるにとどまり、具体的に取材をしようという心境には至っていない。

H児は、後に「すぐにやぎさんを思い浮かべたが、やぎさんとお母さんは仕事の知り合いというだけで、実際に取材できるとは思えず、おばあちゃんにしようと思った。」と語

資料 14 H児の総合Ⅱを終えた時の作文

送りたい。」と書いている。(資料 15)

く	さ	る	感	は	に	事	を	私
れ	れ	し	謝	な	り	し	は	
る	る	、	さ	人	や	幸	い	人
か	と	心	れ	や	幸	い	う	や
ら	毎	も	る	動	物	セ	う	
で	日	あ	し	、	な	ん		
す	か	っ	、	な	ん			
。	楽	た	感	助	ひ	な	動	物
	し	ま	謝	け	ひ	な	物	な
	く	る	さ	る	も	か	ら	の
	な	っ	ら	る	と	、	感	謝
		て	で	ど	い	り	た	さ
		幸	す	心	ろ	ん	い	や
		せ	。	も	ん			
		な	そ	う	な	で	る	を
		ひ	れ	れ	人	す	よ	助
		ひ	に	し	か	。う	け	る
		を	感	く	ら	理	な	は
		お	謝	な	も	由	人	は

あなたは、どのような生き方をしたいですか

資料 15 O 児の大単元導入前の「どのように生きたいか」作文

総合 I 「千寺丸さんの生き方から学ぶ」を終えて「あなたはどのような生き方をしたいですか」の O 児の作文はやや変化が見られた(資料 16)。

ん	に	し	も	あ	生	か	理	い	毎	か	私
い	信	さ	前	と	き	い	理	ま	日	感	は
や	だ	れ	書	感	物	や	由	し	毎	謝	
な	れ	か	て	い	が	だ	は	。幸	日	さ	動
い	も	な	い	い	わ	し		せ	な	る	物
の	助	く	る	た	わ	生		な	る	を	
か	け	て	人	事	い	死		日	人	助	
な	で	、	に	と	そ	物		々	に	け	
と	く	自	な	似	う	か		を	な	任	
思	れ	分	り	い	死	ん		く	し	事	
い	ま	り	危	い	に	え		う	し	信	
し	と	隙	で	け	こ	ろ		ま	で	用	
た	い	か	す	れ	い	る		も	生	き	
。う	お	。ど	る	が	見	と		き	き	い	
	こ	と	理	由	う	て		い	た	れ	
	と	あ	は	は	う	す		る	こ	い	
	か	れ	は	す	。と			と	思	て	
	な	な	信	用							
	い	時	も								

あなたは、どのような生き方をしたいですか

資料 16 O 児の総合 I 後の「どのように生きたいか」作文

O 児は「動物を助ける仕事をし、いろいろな人から感謝される人になり、信用もされていて、毎日が幸せな日々を送りたい。」「前に書いたことと似ているけど、私は信用もされる人になりたいです。」と書いている。資料 15 と資料 16 を比べてみると、O 児には、動物を助ける仕事をし、人から感謝されたいという、ぶれない明確な夢があるということがわかる。ただ、大単元導入前と夢は変わらないものの、千寺丸さんの生き方から「信用

される」ということについて影響を受けていることが分かる。

② K 児の追究に学ぶ授業 (総合 II 6/12 時)

総合 II に入っても、O 児の夢は特に変わらないまま、K 児の追究に学ぶ授業を迎える。

授業の中で K 児は、父が、辛い修行を耐えるくらいケーキ屋になるという夢を大事にしていたことや、家族との時間をもつために、前に働いていた店を辞め、お金がかかるのに、家の前に店を建てたことなどを理由に挙げて、父の生き方を「すごい」と表現した。以下は、その時のクラスの児童のやりとりを取り上げた授業記録である(資料 17)。

C1: 「K はそんなお父さんを見てどうしようと思ったんですか?」

K1: 「お父さんがケーキを好きみたいに、自分にもなりたいた夢をもって、夢を実現したい。」

C2: 「K はケーキ屋さんになってみようと思ったんですか?」

K2: 「他の仕事をやってみたい。まだ決まっていないけど、ケーキ屋以外で何かしてみたい。」

T1: 「じゃあ、K は、この勉強する前は、お父さんのことをどう思っていたんですか?」

K3: 「家族のために働いとるだけやと思っとった。」

T2: 「家族のために働いとるだけって?」

K4: 「お金を稼いどるだけ、仕事しとるだけやと思っとった。」

C3: 「家族のために働いとるだけ、お金のためって思っとったけど、今、追究してきてどう変わったのかを知りたいです。」

K5: 「お金を稼ぐために働いとるっていうのもあったし、お父さんが家族と一緒におりたっていうので働いとるのもわかった。ケーキ作りが好きで働いとるっていうのもわかった。」

T3: 「そんなお父さんをどう思う?」

K6: 「強い覚悟をしてなったのかなあって。悪かったなあって。」

C2: 「悪かったって言ったけど、どういうところが悪かったん?」

K7: 「働いとるだけ。お金を稼ぐために働いとるだけやと思っとったけど、ケーキが好きとかそういうことも分かって……今までお父さんのことわかってなかった……って。」

資料 17 K 児の追究を題材にした授業記録

K 児は「自分にもなりたいた夢をもって、夢を実現したい。」と発言する(K1)。それに対し「K はケーキ屋さんになってみようと思ったんですか。」と尋ねる児童がいた(C2)。やはり K 児は「他の仕事がしたい。」と言う(K2)。このやりとりの後に、もし自分が K 児だったら家業を「継ぐか」「継がないか」

この話し合いで、〇児は何も発言をしなかった。教師が「継ぐ」「継がない」で挙手させた場面では「継がない」に挙手していた。しかし〇児はその日のふりかえりで揺らいでいる（資料 18）

10/7 〈謙将は、2学期の追究をして今日ばんまで意^いてゐるかな〉

思ひました。	に、その会社をついでほしうのかを聞くといふと	頼の子がつかへず、続かないから私は、親	その人の親も、自分では決めるのは、いいけど	自分の夢は、自分で決めるのは、いいけど	です。
かたと思つたけど、私は、Kさんの話を聞	いて、私は、自分が見たいことを自分で選	ぶとして、自分の夢を見つけたら、思ったから	父さんや母さんの後をつかへず、いけないうの	かなと思つたけど、私は、Kさんの話を聞	かたと思つたけど、私は、Kさんの話を聞
理由は、私は、木室の娘だから、お	理由は、私は、木室の娘だから、お	父さんや母さんの後をつかへず、いけないうの	父さんや母さんの後をつかへず、いけないうの	かなと思つたけど、私は、Kさんの話を聞	かたと思つたけど、私は、Kさんの話を聞
なと思ひました。	なと思ひました。	なと思ひました。	なと思ひました。	なと思ひました。	なと思ひました。
は、ハレルヤをつぐんじなくして、自分の夢	は、ハレルヤをつぐんじなくして、自分の夢	は、ハレルヤをつぐんじなくして、自分の夢	は、ハレルヤをつぐんじなくして、自分の夢	は、ハレルヤをつぐんじなくして、自分の夢	は、ハレルヤをつぐんじなくして、自分の夢
を持っていたと言つて、たまたま私も、同じだ	を持っていたと言つて、たまたま私も、同じだ	を持っていたと言つて、たまたま私も、同じだ	を持っていたと言つて、たまたま私も、同じだ	を持っていたと言つて、たまたま私も、同じだ	を持っていたと言つて、たまたま私も、同じだ
Kさんは、お父さんに取材して、Kさん	Kさんは、お父さんに取材して、Kさん	Kさんは、お父さんに取材して、Kさん	Kさんは、お父さんに取材して、Kさん	Kさんは、お父さんに取材して、Kさん	Kさんは、お父さんに取材して、Kさん
私は、ひいはあちゃんに取材したけれど、	私は、ひいはあちゃんに取材したけれど、	私は、ひいはあちゃんに取材したけれど、	私は、ひいはあちゃんに取材したけれど、	私は、ひいはあちゃんに取材したけれど、	私は、ひいはあちゃんに取材したけれど、

○児は校区内の水産会社を営む家の娘として生まれる。「お父さんお母さんの後を継がなきゃいけないのかなと思ったけど、Kさんの話を聞いて、私は自分がしたいことを自分で努力して自分の夢を見つけたい。」と書いている。一方「自分の夢は自分で決めるのはいいけど、会社は子が継がなきゃ続かない。」と家や会社のことが気になってきている。

その後、12月初旬に書いた卒業文集を資料19に示す。

授業を行ったのが10月17日で、卒業文集を書いたのは12月初旬。卒業文集には、「私の夢は二つあって決められないけど、一つ目は動物に関わる仕事、二つ目は□□水産で働くことです。」と書いていることから、〇児は授業後も自分の生き方について考え続けて

自分の夢

私の夢は、二つあって決められないけれど、一つ目は、動物に関わる仕事、二つ目は、水産で働くことです。

なぜ、私が決められない理由は、二学期に授業でした自分の生き方について考えようという勉強があり、私は、ひいばあちゃんの生き方を聞いて、その生き方の中に、水産のことがあったからです。

水産の話を聞いて、私は、「こんな差別をしてやつと建てたんだから、水産はつぐねない」と思いました。理由は、ひいじいちゃんからひいじいちゃんそして今社長をして受けていたからです。

動物に関わる仕事をしたいと思った理由は、今まで飼っていたヤツが死んでしまった時にすごく悲しかったので、病気がかかると動物の飼い主は、私と同じ気持ちなんだと思って、少しでも病気の動物を助け、飼い主の悲しむ姿がなくなればいいなと思ったからです。

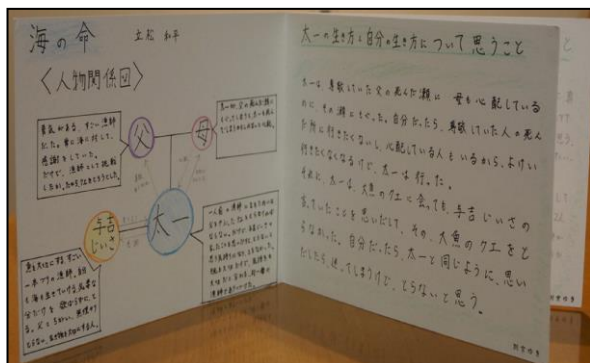
もう一つの理由は、「わざびちゃんといまわりの季節」を読んだことです。理由は、わざびちゃんという猫を助けた夫婦の行動がすごく、危険にあっている動物を救っていたからです。

○児は最終的にどのような決断をするかはわからない。ただ、家族の思いを考えずに生き方を決めるのと、知った上で自分の生き方を自分で決めるのとは、意味合いが全く違う。このような話し合いは、仲間に追究を提示する児童にとって、自分の追究について友達が考えたことを聞けるよい機会であるのはもちろんのこと、他の児童も仲間の生き方から自分の生き方を考える機会となり、大変意義深いと言える。

国語科「海の命」のみで生き方を考えた平成24年度の実践と、年間を通じて教科を横断して生き方を考えた本実践とでは、児童の意識や思考にどのような差異が表れるのかを考察・検証する。

単元導入において、児童に次のような話をした。「『海の命』では、登場人物がどんな人物でどんな生き方・考え方をした人物かを読んでいこう。そして、その人物同士の関係を捉えていこう。なぜ、人物同士の関係を捉える必要があるのかな。それは、徐々に登場人物が増えて、その関係性が複雑になってくるからです。これから出会う物語は、もっと人物同士の関係が複雑になってくる。だから『海の命』で、登場人物の生き方・考え方を読んで、人物同士の関係を捉える勉強をしましょう。最後には、国語でも、登場人物の生

き方について自分の考えをまとめていきましょう。」と促し、平成 24 年度の 6 年児童が書いた『生き方リーフレット』を提示した。



資料 20 H24 6 年児童が作った『生き方リーフレット』

このリーフレットは、左には【人物関係図】、右には【登場人物と自分の生き方について思うこと】の 2 つのパーツで構成されている。

そこで補足したことは「総合の人物の生き方から学ぶ学習と決定的に違うことは、国語であり、叙述から生き方の根拠となる文を探してこないといけないこと。」である。国語科のねらいから外れないよう児童にも意識させたいと考えた。

その後、初発の感想を書いた。「人物の生き方について考える」ことについて、どう思ったかについても記入するよう促した。

その結果、60%の児童が「国語でも登場人物の生き方について考えることはできる。」と記載している。その理由としては「総合的な学習の時間に、二人の生き方を考えてきたので、今度もできる。」というものが多かった。反対に「難しい」と記載した児童の理由は、「今までは実際に会って取材できたけど、国語は本文から登場人物の生き方を読まないといけない。それは初めてなので難しい。」としていた。しかし、過去の 6 学年とは違い、「生き方を考える」という部分での抵抗はないようであった。むしろ、簡単であると考えている児童が多かったのは、教科横断型で「生き方」を考えてきたからだと思われる。

②登場人物の生き方から自分の生き方へ

三次では、【登場人物の生き方から思うこと】について考えをまとめた。

平成 24 年度の児童は、「太一」が「クエ」（大魚）を獲らなかったことについて自分だったらどうするかについての記載や、『自然

との共存』について自分はどうか考えるかについての記載にとどまっていた。

今年度も、9 名の児童は資料 21 のような書きぶりで、平成 24 年度と差異は見られない。

〈太一の生き方から思うこと〉
ほくだったら、クエをとっていたと思いました。
なぜかというクエをとれば、父を超えられるし、
お金も大量にかせげるからです。
でもその魚が本当に海の命だったんなら、もしもとると、
海の生態系がくずれてしまうので、
とらなかつた太一は正解だったかなと思いました。

資料 21 H29 ある児童の〈太一の生き方から思うこと〉

しかし、25 名中 16 名の児童は「クエをとる・とらない」だけでなく、「太一」が「父」と「与吉じいさ」の二人の生き方に大きく影響を受け、二人の考えの狭間で葛藤し、最終的に自分で判断したことについて、自分の将来と重ね合わせて記載していた。

〈太一の生き方から思うこと〉
太一がクエがとらなかつたことと同じで、私もクエをとらないと思いました。理由は、魚は海のめぐみで、とりすぎると生態系がくずれてしまうし、与吉じいさの教えもあるから私も太一と同じでクエをとらないと思いました。
私は、今動物に関わる仕事をするか親がしている仕事をするかで迷っています。でも、これからいろいろな人と会ったりして、いろいろな人から影響を受けてもっと迷ってしまうからたいへんだなと思いました。影響を受けるのはふつうだからしょうがないと思いました。

資料 22 O 児の〈太一の生き方から思うこと〉

資料 22 の O 児は前述の児童である。O 児は、「私は今、動物に関わる仕事をするか、親がしている仕事をするかで迷っています。でも、これからいろいろな人と会ったりして、いろいろな人から影響を受けてもっと迷ってしまつて、大変だなと思いました。」と書いており、太一の迷いと、自分のこれからの迷いを重ねて考えている。

〈太一の生き方から思うこと〉
ぼくが太一だったらクエをとれません。師匠の与吉じいさの教えを聞いてまてして、クエをとろうと思わないからです。
太一は最初父と与吉じいさの教えで迷っていました。
ぼくはお父さんの考えを聞いてハルヤをまじうと思いましたが、今後はいろいろな人から教えを聞いて自分の考えをもとに、お父さんの考えをバジに入れて生きようと思いました。

資料 23 K 児の〈太一の生き方から思うこと〉

資料 23 の K 児童は、授業で追究を取り上げた児童である。K 児は現在、父の仕事（ケーキ屋）を継ごうと思っている。しかし「今後いろんな人から教えを聞いて自分の考えをもって、お父さんの考えを心に入れて生きようと思いました。」と書いており、一時は父を超えたいと思い、大魚を獲りに行きながらも、与吉じいさの教えを心にとめ、教えを守り続けた太一と重ねて考えたと思われる。

このように、総合での「自己の生き方を考える」学習が、国語科においても自己の生き方を考え続け、さらに深まっていたことから、大きな影響を与えているといえる。

2. 総合Ⅱの対象人物の選び方 —児童の多くが選んだのは家族—

この章で記載するのは、当初予想していなかったが、新たに明らかになったことについてである。

それは、総合Ⅱの取材する人物として、家

族を選んだ児童が実に多かったということである。総合Ⅱ導入後、追究しようと思う人物について書いた。すると、その時点で 24 名中 18 名 (75%) もの児童が、家族・親族を候補に挙げていた。

夏休み後、改めて「私が選んだ人」の題で作文を書いた（まとめたのが表 1）。そこでも、転校生 1 名も含め、25 名中 21 名 (84%) もの児童が、自分の家族・親族を選び、すでに取材し始めていた。

さらに目を引いたのは、その理由である。25 人中 10 名 (40%) が、クラスの仲間である千寺丸さんの孫の名前を書いている。その作文の一部が資料 25, 26, 27 である

「（クラスの仲間である）千寺丸さんがうらやましかった。」「自分の身近なところにもすごい・素敵な生き方をした人がいるかもしれない。」という理由で、自分の祖父母の生き方に目を付けようとする児童が実に多かった。

番	選んだ人	理由	家族親	千寺丸に影響
1	曾祖母	家の中で一番長く生きていて、いろんなことをしてきたと思うから。	○	
2	叔母	部屋にスポーツの賞状や医学の本。看護師という職業に興味があった。	○	
3	父	千寺丸が身近な人の生き方を知って、自分も父の生き方を知りたい。	○	○
4	祖父	千寺丸の祖父の生き方を知って、自分の祖父について知りたくなった。	○	○
5	祖母	昔のことを知っている。祖母が一番聞きやすい。	○	
6	やぎさん	憧れのパン屋さんだから。		
7	母	千寺丸は祖父を調べて知らないこともいっぱいあった。母よく知らない。	○	○
8	祖母	一学期祖父のことを学校で調べたが、祖母にも知らない秘密があるのか。	○	
9	曾祖母	憧れのバレーの選手には取材できない。曾祖母がバレーをしていた。	○	
10	父	千寺丸の祖父がすばらしいと思ったし、千寺丸がうらやましかったから。	○	○
11	曾祖父	もしかしたら自分の身近にも、すごい生き方をしているかもしれない。	○	○
12	祖父	千寺丸さんと同じ海に関わる仕事をしていた祖母は無理。だから祖父。	○	○
13	祖父	自分の身内にもすごい生き方をしている人がいるのかなあと思った。	○	○
14	祖父	憧れの人に生き方が似ているように思う。皆が知っている祖父、疑問。	○	
15	祖父	千寺丸が家族の知らないことを知れることが、うらやましいと思った。	○	○
16	母	母を尊敬しているから。なぜ、母は看護師をやめたのか気になったから。	○	
17	呉藤さん	（9/ 4 時点では父。転入生と共に取材に行く中で、どうしても取材した		
18	曾祖母	校長先生が平和集会で話した方が、曾祖母と同じような年で気になった。	○	
19	祖母	祖母の話を以前に聞いていて興味があった。長い間生きているから。	○	
20	担任	怒るときは起こる。でも、いつもにこにこ。どんな家庭に育ったのかな。	○	
21	叔父	叔父の仕事場に行ったら真剣。夜中しか返ってこない。	○	
22	父	母の薦め。父は元料理長。千寺丸さんも責任、父も責任があるのかな。	○	○
23	曾祖母	曾祖母は戦争を経験している。あまり話せていないから、知りたい。	○	
24	曾祖母	千寺丸のように、自分の身近な人もすごい人生を送っているのかな。	○	○
25	呉藤さん	（転入生のため、担任の推薦で決めた）		

表 1 最終的に取材した人物・その理由

[illegible]

資料 25 千寺丸の姿を見て影響を受けている N 児

[illegible]

資料 26 千寺丸の姿を見て、影響を受けている Y 児

[illegible]

資料 27 千寺丸の姿を見て、影響を受けているR児

千寺丸さんの孫は、総合Ⅰの導入で「千寺

丸さんの生き方から学ぶ」ということを伝えた際、「じいちゃん怖いだけやよ。」と恥ずかしそうにしていた。しかし、追究を進めていくにつれ、祖父の生き方を知り、驚きと喜びの表情を浮かべ目を輝かせていった。そんなクラスの仲間である千寺丸の姿が、他の児童に「身近な家族の生き方について調べたい。」という思いにさせたのだと考える。

私は、総合Ⅰの集団で追究する人物を決める際、その人物の生き方が子どもたちの学びにどのような影響を与えるかを第一に考えていた。橋立地区に住む数名の人物を取材し、その中から千寺丸義一さんを選んだ。クラスの子どもの祖父であることも理由の一つではあったが、主とした理由ではなかった。

しかし、児童の追究したい人物の選び方に大きな影響を与えたのは、1 学期追究した千寺丸さんの孫の姿、つまり、クラスの仲間の姿を近くで見えてきたことだったと言える。

VI. 議論

Vでは、具体的な児童の姿を挙げながら、生き方についての児童の考えの深まりを述べてきた。これらを受けて、VIでは、年間通じて教科を横断して行った大単元「自己の生き方を考えよう」の意義について考える。

1. 総合Ⅰと総合Ⅱをつなげて行う効果

総合Ⅱにおいて、H児のように意欲的に追究したり、物の見方を変えて「生き方」について考えたりすることができたのは、クラス全員が共通の人物の生き方を追究した経験（総合Ⅰ）が生きたからだと考える。児童アンケートの結果からもわかるように、個々の追究は難しい。よって、初めから個々で追究するのではなく、総合Ⅰの集団で学ぶ学習を経験してこそ、総合Ⅱの個々の主体的な追究が可能となると考える。

2. 仲間の追究から学ぶ効果

仲間の追究から学ぶ授業が、自己の生き方を深く考えるきっかけとなった〇児の事例のように、仲間の追究や追究で考えたことをみんなで共有することは、同じことが気になっていた児童にとっては、立ち止まって再度考えたり、違う見方をしたりする機会になる。

また、追究を発表した児童と違う価値観の児童にとっては、新たな価値観を知る機会になる。それぞれ違う追究をしても、仲間の追究する姿や仲間が考えたことを共有し、自分と重ねてみることで、生き方について、さらに深く考える学びの場となると考える。

3. 教科横断型カリキュラムの効果

国語科「海の命」では、平成24年度の児童と本実践における児童の「生き方」についての思考とでは、明らかに深さに差が見られた。総合などで「生き方」を考え続けてきたことが、国語科の学習とつながり、さらに深い思考に結びついたのではないだろうか。一つの教科、一つの単元で閉じてしまうのではなく、教科を横断し融合させることで、様々な面から生き方について考えることができ、より効果的な学習になると考える。

1, 2, 3で述べてきたことを総合的に見ると、全ての児童が一つの単元で生き方について深く考えられた訳ではない。児童の環境や経験に違いがあり、その子その子で深く考え始めた場は異なる。その深さも様々であった。単元をつなげたり、教科を横断したり、友達の追究の姿からも学んだりすることで、多くの児童の深い追究が可能となると言える。

4. 総合Ⅱで対象に家族が多かったことから考えられる教材選定の視点

私たちは、「何を学ぶか」に目を向けがちである。しかし、児童が最も影響を受けるのは、目の前の仲間の姿であった。つまり「誰から学ぶか」ということも児童の学びの上で重要であることが、総合Ⅱでの取材する対象の選定から言える。

Ⅶ. まとめ

1. 結論

様々な場面において、自己の生き方について思考の深まりが見られ、第6学年の時期に自己の生き方を考えることは意味があり、教科横断型カリキュラム「自分の生き方について考えよう」は有用であると考えた。

このことは、次の4つに集約できる。

(1)共通の人物の生き方をクラス全体で学ぶ

総合Ⅰの学習と、自分の取材したい人物を自分で選択し、自分で追究する総合Ⅱの学習をつなげることで、総合Ⅱは意欲的かつ深い生き方の追究につながる。

(2)自分が追究した人物から学ぶのはもちろん、仲間の追究からも学ぶことができる。

(3)総合での学習と国語科をつなげることで、生き方について深く考えることができ、効果的な学習となる。

(4)総合Ⅰの共通の学習材は、どんな生き方をされてきたのかが重要ではなく、クラスの児童の家族であったということが大きい。

2. 残された課題

本研究では、以下が課題として挙げられた。

(1)今回、このようなカリキュラムを構想する時間が十分与えられたため、ダイナミックで意味のある単元を構想することができた。カリキュラム構想を学校としてどのくらい大事に考え、構想のために、どれくらいの時間を費やせるかが課題となる。

(2)総合Ⅱの個人の追究はやはり難しい。その対応策として、総合Ⅰの学習の経過や総合Ⅱの学習の内容について、学級だよりで保護者に知らせる等の手立てが考えられる。

(3)仲間の追究に学ぶ授業では、聞き手に、相手の話を傾聴できる姿勢が身につけていることが必須である。追究で考えたことを引き出し、自分と重ね合わせて考えるような聞き手を育てることが大切である。

※引用文献

(1)文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間」、東洋館出版社 6-12

(2)文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説道徳編」、東洋館出版社 16-20

(3)文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説特別活動編」、東洋館出版社 19-20

(4)文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説国語編」、東洋館出版社 38